



令和4年度 フォーレスト 事業報告

『未来に向かって共に歩みます』

職員異動状況

入職	： 正規職員 4名	嘱託職員 0名	パート職員 7名
	（ 介護職 2名 看護職 1名 法人本部 1名 ）		（ 介護職 5名 運転手 1名 介護支援専門員 1名 ）
退職	： 正規職員 4名	嘱託職員 1名 (介護職 1名)	パート職員 6名 (介護職 6名)
	（ 介護職 2名 看護職 1名 法人本部 1名 ）		

令和4年度は入居者ひとりひとり、職員ひとりひとり、家族や地域、関わる全員で一丸となってフォーレストを盛り上げよう取り組み始めた年度となりました。しかし感染症対策が継続される中、家族面会や外出活動等、行動に制限がかけられることも多々あり、外部との繋がりが希薄になってしまいう状況でした。しかし大切な「いのちを守る」という役割りを第一優先に果たすことができています。12月末には施設内で新型コロナウイルス感染症の発生が確認されましたが最小限に抑えることができました。これも全職員が我がこととして受け止め、「拡げない」という意識を強く持って対応した結果だと思えます。この体験を通して具体的な課題も多く残りましたが、何よりも職員同士がいたわり合う気持ちが芽生えるといった大切なことを得ることができ、今後の事業進捗の中で必ず役に立つ機会となりました。

1 ここで生活する利用者の個別支援を大切にします

フォーレストでは、特養入所者（ショート含む）60名、グループホーム入所者9名、デイサービス登録利用者約90名、160名ほどの高齢者の方の生活を支援させていただいています。160名それぞれ異なる生活実態があり、ひとりひとりのこれまでの生活歴や家族背景、家庭環境を大切に、利用に至った経緯を相談員中心に丁寧に聞き取りをしてきました。入所後もこれまで大切にしてきたこと、これから大切にしたいことを一緒に考えています。住み慣れている地域とのつながりや役割りが途絶え、孤独を感じることをないよう入所後もその方に対して、またご家族に対してもアプローチし続けています。

特養入所後の平均在所期間が以前より短期になっています。この令和4年度も退所した方が28名、新規で入所した方が28名と、1年間で入居者定員の半数以上が入れ替わりました。状態が低下し入院となり、退院の見込みがない、また最後は逝去という形で退所となるケースがほとんどであ



ります。そのような方や家族の思いを振り返った時、「フォーレストで生活できて良かった」と思ってもらえるよう、職員はあたたかい気持ち（ココロ）を持って入居者の方と向き合ってきました。まだまだ十分ではないかもしれませんが、1日1日の関わりを心を込めて支援にあたるよう心掛けています。入居者にとってはここが生活の場です。入居している本人はもちろん、家族も安心して利用できるような環境作りに努めてきました。コロナ禍でなかなか面会ができないからこそ、家族に対してもより丁寧に、顔の見える関係作りを心掛けました。LINE面会時には日頃の様子を丁寧にお伝えし、その場で撮影した写真を送信させていただく等、よりご本人を身近に感じていただけるような工夫もしてまいりました。

2 一緒に働く仲間を大切にします

ちいさがた福祉会では職員ひとりひとりのことも大切にしています。一緒に働く仲間がいることに感謝をしています。職員同士が信頼し、連帯し、困った時にはお互いが助け合える仲間作りを意識していますが、なかなかカタチに表すことが難しい状況を感じることもあります。しかし先にも述べたように今年度は施設内で新型コロナウイルス感染症が発生し、職員も対応に当たる中で感染してしまうケースが多く見られ、職員もひとりひとりがそれぞれの役割を持って対応に向かい合い、全員で大きな局面を乗り越えることができました。この経験は全職員の心の中で今後の事業展開に役立つものになったと思います。

また今年度取り組み始めた法人アンケートの中で職員からの実際の声を引き上げ、具体的に改善できることの項目を絞り、法人全体施設ごとで「元気100倍プロジェクト」を立ち上げ、フォーレストとしても業務改善に取り組んできました。職員からの意見をひとつでも多くカタチとして残し、毎日前向きな気持ちで勤務にあたるよう取り組んでまいりました。毎月の運営会議で取り組み状況の進捗確認をし、まずは会議メンバーで情報共有に努めました。カタチとして効果が表れたものもありました。逆に未実施となった項目もありましたので今年度だけで終わりとせず、新年度も引き続き取り組んでまいります。プロジェクトメンバー中心に職員が働きやすく、前向きになれるような職場作りを自分たちで築いていきます。実際に職員から挙げられた貴重な意見です。令和4年度の取り組みを職員にきちんと返していきたいと思います。

また令和4年度は職員が学べる場として法人全体職員研修会の年間計画を立案し、実施しました。個人カード（※誰が、いつ、なんの研修に参加したか一目でわかるもの）を作成し、参加する職員が偏らないよう、こちらから平等に声掛けをし、積極的に大勢の職員の参加を促してきました。コロナ禍ということもなかなか外部研修への参加はできませんでしたが、感染症対策をしながら外部講師を招いて研修会の機会を設けてきました。また施設内での内部研修も実施し、看護師が「嘔吐物の適切な処理方法について」、管理栄養士と歯科衛生士が共同で「食事・口腔ケアの重要性について」といった内容で講義と実技を交えて自分たちが学んだ専門的な知識を他職種の職員へ伝えるということを実践しました。

【研修実績】

8月26日（金）「認知症高齢者の看護」

講師：東御市民病院 認知症看護認定看護師 土屋 優子氏

9月9日（金）「褥瘡予防と処置」

講師：yui 訪問看護ステーション 皮膚・排泄ケア認定看護師 原 慎吾氏

9月20日（火）「感染予防と対策」

講師：丸子中央病院 感染管理認定看護師 鳴澤 睦氏

10月6日（木）「感染予防と対策」

講師：川西赤十字病院 感染管理認定看護師 水内 豊氏

11月22日（火） 「食事・口腔ケアの重要性について」

11月27日（日） } 講師：柳澤管理栄養士／吉田歯科衛生士

12月1日（木） }

12月20日（火） 「管理者研修」

講師：法人内 小山看護アドバイザー

3 地域の中で“フォーレスト”としての役割りを果たします

地域の中に存在する意味、役割りを改めて確認しながら、事業展開をしております。

特養／ショートステイ

必要な方がスムーズに入所できるよう在宅支援センター長と連携し、待機者名簿の整理、現況調査を実施する中で次期入所者を決定しています。法人内にはこころとフォーレスト、2カ所の特養とショートステイがあります。それぞれの特色を活かし、本当に必要としている方たちが必要なサービスを利用できるように法人全体で調整を図ってまいりました。月に1回、法人全体で入所判定委員会を実施し、各施設の入退所状況含め、調整・相談が必要なケースを話し合う場も設けてきました。お預かりしているベッドをなるべく空きを作らないように積極的に新規の受け入れをし、入院中の空床利用も併設しているショートステイと調整をしてきました。感染症対応のため、居室制限をさせていただくこともありましたが、入所を前提とする方を積極的にショートステイで受け入れる、本入所につなげるという体制を継続することができています。

法人内で新型コロナウイルス感染症の発生が確認され、そちらからフォーレストショートステイへ移行してくるケースもあり、ショートステイの稼働実績が一時的に上昇傾向にありました。ご家族やご本人が困らないよう法人内で素早い対応、調整を図ることができました。12月にはフォーレストでも新型コロナウイルス感染症の発生がショートフロアで起こり、本来帰宅予定の利用者に退所を延期していただいたり、細やかなベッド調整が必要となりました。

ショートステイ含め60床のベッドコントロールについてはショート担当者、施設ケアマネ中心に連携が図られ、52床の本入所枠は長期間空床にするという状況は避けることができました。



グループホーム

施設にしながら「働くことができる」がひとつのウリとなっています。小諸市指定のゴミ袋に通し番号のシールを貼る作業を継続して請け負っています。入居者も自分たちの役割りとして捉え、分担が自然とできています。認知症状がある方でも自分の役割りを持ち共同生活を送れること、認知症状の進行を少しでも緩和できていることを働いている職員自身が実感し、入居者が落ち着いた生活を送れるように環境を整えてきました。施設に入所することで地域社会や家族とのつながりが絶たれてしまいがちですが、まだまだ役割りをもって生活していることの自信にもつながっていると思います。感染症対策のため、地域行事の多くが中止になっています。しかし年末にはしめ縄保存会の活動が再開となり、グループホームにも訪問していただきました。入居者と一緒にしめ縄飾りを作り、地域の方との交流が少しずつ戻ってきています。これまで築いてきた地域とのつながりを崩すことがないように、2 ヶ月に 1 回開催される運営推進会議では相互の情報交換をし、共有しています。

また令和 4 年度は 11 月に外部評価を受けました。その中で家族向けアンケートを実施しましたが、9 名中 7 名の家族がサービスに満足しているという回答でした。(※2 名はアンケート返信なし) この結果に私たちは満足することなく、今後も更なる質の向上を目指していきます。

デイサービスセンター

令和 4 年度は訓練担当職員がリーダーとしての職に就きました。今まで以上に機能訓練を強みとし、パワーリハビリ機器 6 台を 3 サイクル実施、合わせてサイクルマシン、マッサージベッド、電気療法、施術等、各種を取り揃え、利用者個々に合わせた訓練メニューを充実させ、利用者の満足度、達成感につなげることができました。決められたメニューだけを実施するのではなく、「今日は肩が痛くて・・・」の利用者の一言で、臨機応変に訓練メニューを一部変更したり、その方の希望に寄り沿った対応ができました。

その他、各専門職（看護師・管理栄養士・歯科衛生士）と連携を密に図り、自宅での生活が継続できるよう、その方の生活を支える各種メニューを提供できています。しかし新規利用希望者においては希望する曜日やメニューを受け入れることができず、お断りするケースも多少ありました。

※令和 4 年度 新規受け入れ：18 名

また令和 4 年度こそは、L I F E へのデータ提出とフィードバックの活用により、ケアの質の向上を目指してきましたが、実践には至りませんでした。

《L I F E を導入するメリット》

- ①様々な分析ができる
- ②適切なケア方法を見つけられる
- ③加算がある

令和 5 年度に向けて、加算を取得することが目的ではなく、統一した支援を目的とし、実践していきたいと思っています。



医療／看護

専門職（看護・歯科衛生士・管理栄養士）が協同し、それぞれ専門職としての立場からひとりひとりの生活を想い、支援をしてまいりました。

12月末には施設内で新型コロナウイルス感染症の発生が確認されましたが、陽性者をなかなか収容してくれる病院はなく、施設内で対応をしました。事前にゾーニングやPPE（防護服）の着脱手順等、学習していたことを職員で振り返り、再確認しながら十分に活かすことができました。発生を確認した日から完全収束まで25日間を要しました。ショートフロアで発生した感染症が他フロアへ拡大しなかったことはひとつ大きな成果だと思います。基本的な感染症対応策を改めて見直すことができ、課題も明確となる機会をいただきました。東御記念セントラルクリニックとより細かい連携を図ることができ、感染入居者も重症化することなく快方に向かうことができました。今後も医療との連携をより強化してまいります。

- 10月17日（月） インフルエンザ予防接種（1回目-①）
- 10月24日（月） インフルエンザ予防接種（1回目-②）
- 11月7日（月） インフルエンザ予防接種（2回目-①）
- 11月14日（月） インフルエンザ予防接種（2回目-②）

感染症対応に関しても法人内でその都度統一したルールがあり、職員も利用者もそれに基づいた行動、対応を心掛けることができました。報告・連絡・相談といったことが職員の中に身に付き、感染症に対する意識が変わったことを実感できました。

「持ち込まない・持ち出さない・拡げない」、「いのちを守る」、この2つを第一優先事項として徹底してまいりました。

どの事業においても、“フォーレスト”を利用して良かったと、利用者本人またその家族、関係者がそう思えるよう、第一に考えるのは利用者の満足度と捉え、全職員がその意識を持って利用者に向かい合った1年となりました。

また令和4年度、フォーレスト便りの発行に着手しました。季刊誌として年4回発行し、家族や地域へも発信し、顔の見える関係性を築くひとつの方法となりました。この便りをきっかけに利用者や家族から声を掛けられることも多くなり、引き続きフォーレストのことを家族や地域に発信していきたいと思えます。